

水曜通信18

東北学院宗教センター編

2022年
6月

LIFE

LIGHT

LOVE



田中忠雄(1903-95)
『弟子の足を洗う』1988年制作
東北学院蔵

田中忠雄は泉の礼拝堂のステンドグラスを制作した画家。仙台の東華学校の教師でもあった組合教会の牧師の子息で、仙台と関わりが深い。27×24cmの色紙で、裏に自筆のサインと「弟子の足を洗う」との記述がある。ルオーの影響を受けた表現主義で、日本のプロテスタントを代表する画家である。

ランカスター神学校とのオンラインセミナー

5月10日(火)から11日(水)にかけて、米国のランカスター神学校の学生やスタッフの皆さんと遠隔のオンラインセミナーを開催しました。日本側からは本学の教職員と他の2校の先生たちが加わり、1回2時間半の3回のセッションを行いました。詳細は後日報告書を作成する予定ですが、本稿の4頁にも掲載していますのでご覧ください。

この巻頭言で特にお伝えしたい点は、開催してみて、米国側でとても日本に関心を抱いてくれていることと、どのような形で今まさに意見交換や交流が必要であるという点でした。ステイホームに慣れるに従って、つい自分のことばかりに意識が向かい、視野が狭くなって大局的にもの考えることが疎かになっていると気づいたからです。これは現代の国際間の軋轢に関しても言えることかもしれません。

3回のセッションが終わって、閉会する時にアメリカ側の人々が画面に近づき、手を振ってくれる姿を見た時、開催したことの意味を一層感じさせられました。



東北学院宗教センターチャプレン 野村 信

次回：第53回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)
6月15日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：大門 耕平(文学部講師・大学宗教主任)

奏楽：椎名 雄一郎(文学部教授・大学宗教主任)

【第2部 音楽による賛美】

演奏：椎名 雄一郎



第52回 水曜公開礼拝報告（説教：原田 浩司、奏楽：大泉 真理）

2022年5月25日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：452番「ただしくきよくあらまし」
聖書：マルコによる福音書5章25-34節
讃美歌：280番「わがみのものぞみは」
説教：「道ありき」
頌栄：542番「よをこぞりて」



【説教要旨】

12年間もの闘病生活の中で人生のどん底に突き落とされた一人の女性が経験した救済の物語。この女性は文字通りに何もかも全てを失った。しかし、イエス・キリストの服に触れたことで病は奇跡的に癒された。この聖書の女性と重ね合わさるのが作家の故三浦綾子氏だ。13年もの闘病生活の中で人生のどん底を味わった彼女は自分の半生を振り返って記した自伝が「道ありき」。もうどこにも逃れる道も救いの道もないと思われるような八方塞がりの中で、希望の道があることを生き生きと証している。あの震災から12年目を迎え、コロナ禍も3年目を迎えた。この間、様々に絶望的な状況に陥った人々がいる。信仰によって開かれる道を信じて祈り続けましょう。
(宗教センター主任・大学宗教部長 原田 浩司)

前奏：D.ブクステフーデ作曲「私はあなたを呼びます、主イエス・キリストよ」BuxWV196
後奏：J.S.バッハ作曲《来たれ聖霊なる神よ》によるファンタジアBWV651a

前奏のコラールの歌詞は、主を呼び、嘆きを訴え、み恵みを望み、絶望させないで下さいと願う一方で、まことの道を我も辿り、主に生き、人に仕え、み言葉を守りますと歌います。コラールとオブリガードが絡み合い、それに続くハーモニーの中に見え隠れするコラールの旋律は、あたかも神への問いかけのように感じます。後奏はペンテコステ（聖霊降臨）のコラールファンタジアです。バダルのコラールをベースに、手鍵によって“聖霊のアルペジオ”が繰り返えされ、弟子たちや人々に聖霊が降り注がれているかのようです。未だ戦火の只中にいるウクライナの人々、苦しんでいるすべての人々の上に聖霊の救いと癒しが与えられますように。



(本学礼拝オルガニスト 大泉 真理)

礼拝後、音楽による賛美（リコーダー：曾根 レイ オルガン：門脇 壮）

1. J.ルイエ（ロンドンのルイエ）作曲 ソナタハ長調 作品3-1「12のソロ」（1729）より

ロンドンのルイエ（1680～1730）はベルギー出身の作曲家で、イギリスにコレリイの合奏協奏曲を紹介したほか、管楽器と鍵盤楽器の優れた演奏で活躍しました。

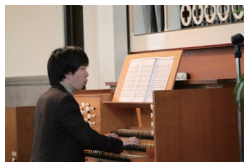
2. G.F.ヘンデル作曲 ソナタ変ロ長調 HWV377「フィッツウィリアムソナタ集」（1724～25）より

ヘンデル（1685～1759）はドイツのハレ出身で、イタリアでオペラを学び、フランスを経由してイギリスで成功した作曲家です。「フィッツウィリアムソナタ集」は「フルート、ヴァイオリン、オーボエのための作品集 作品1」を出版するにあたっての試作段階であると考えられ、変ロ長調のソナタ（HWV377）は当時出版されず、ヘンデル直筆の手稿譜がケンブリッジのフィッツウィリアム美術館に収められています。



3. W.クロフト作曲 ソナタ長調「6つのソナタまたはソロ」(1700)より

W.クロフト(1678~1727)は、王室礼拝堂で音楽教育、作曲、オルガン演奏をする「Master of the Children」というポストで活躍した作曲家です。ドイツという「カントル」に近いものです。このソナタは楽章ではなく、楽節で区切られた構成になっており、初期バロック様式のエッセンスを残しています。



4. M.グリーン作曲 ヴォランタリー5番「12のヴォランタリー」(1779)より

M.グリーン(1696~1755)はW.クロフトの後任で、ヘンデルとほぼ同じ時代に活躍した作曲家です。「ヴォランタリー」というものは、イギリス独自のオルガン音楽で、大抵のものは緩・急の二部で構成されています。グリーンのものはプレリュードとフーガで構成されています。

5. J.バニスター作曲 グラウンド「ザ・デヴィジョン・フルート」(1706)より

J.バニスター(1630~1679)は、王政復古(1660)後のチャールズ二世時代に、国王の私的なバンドとして組織された「4人と20人のフィドラー」でリーダーを務めたヴァイオリニストでした。また、頻繁に自宅で演奏会を開き、「1シリングで一曲」といった具合に聴衆参加型の演奏会で人気を博し、シンプルなパターンの中で変奏を繰り返す「グラウンド」の演奏を得意としていました。



曾根 レイ(大学総合人文学科在学学生)、門脇 壮(日本基督教団 名取教会オルガニスト)

東北学院の草創期(16)「最初の学生」

— ⑦ 鳥貫 兵太夫 —

最後に紹介する鳥貫は宮城県岩沼の出身で、神学校入学時は19歳です。彼は小学校卒業後、岩沼小学校の初等訓導をしていましたが、同僚のクリスチャン教員の感化を受けて押川から洗礼を受けました。勤務先で校長を除く教員18名全員をキリスト教に導くほど伝道の情熱に燃えていた鳥貫は、家族の反対を押し切って神学校に入学します。

鳥貫は在学中から霊肉救済を唱え、キリスト教会は「靈魂の救済」と「貧民の救済」を併せて行うべきであるとの信念を持って、1892(明治25)年には同志とともに東北救世軍を組織して宮城・山形・福島の子三県を徒歩で伝道旅行し、その活動は全国の教会に知れ渡りました。

1894(明治27)年に神学部第1回生として東北学院を卒業した鳥貫は、東京の日本橋元大町教会(翌年から神田美土代町に移転し、神田教会と改称)の牧師として伝道しながら、苦学生の救済を目的とした東京労働会を創設します。翌年には渡米視察の経験から、学生の渡米促進や相談に応じる渡米部も設置し、1900年には名称を「日本力行会」と改称して、苦学生支援と日本の海外移民を中心に事業を拡大してゆきました。

鳥貫は1913(大正2)年に47歳で亡くなりますが、その事業は現在も受け継がれています。

(東北学院史資料センター客員研究員 日野 哲)



ランカスター神学校国際セミナー報告



ランカスター神学校
Vanessa Lovelace先生
あいざつ



ランカスター神学校
Anne Thayer先生
あいざつ

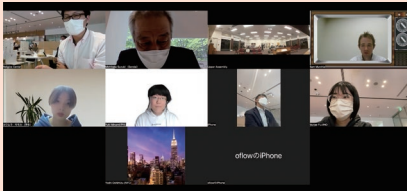


大西院長・学長
(宗教センター所長)
あいざつ

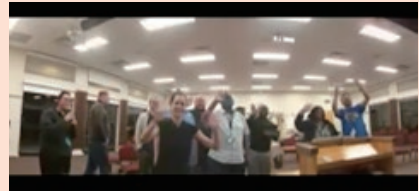
東北学院大学土樋キャンパス、ホーイ記念館のリエゾンにて5月10日(火)の朝9時から、zoomを用い、会場のスクリーンに投影して、ランカスター神学校との国際セミナーを開催しました。第1回目のセッションで、「宣教師とTG最初の40年」と題して宗教センターチャプレン野村信の発表、続いて「宮城女学校：プールボーの書簡を読む」宮城学院女子大学栗原健准教授の発表を行いました。米国からの参加者は学生13名と、教員2名、コーディネーターの1名であり、日本側からは、宗教センター関係者の5名と教員1名、他校の1名の参加でした。

第2回目のセッションは、10日の夜9時30分から、「日本の偶像：日常の中の旧約以前の感受性」と題して鐸木道剛理事長特別補佐の発表、続いて「マーサーズバグ神学と東北」と題して藤野雄大総合人文学科講師の発表を行いました。

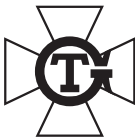
第3回目のセッションは、11日(水)朝9時から、「日本におけるキリスト教とは」と題して、サム・マーチー尚絅学院大学特任准教授の発表、続いて自由討議を行いました。このディスカッションには本学の学生たち5名が参加して、日本語を交えて、様々なテーマについて論じました。これは大変、有意義な時となりました。来年も半日ほど交流を実施したいという願いが出ています。
(宗教センターチャプレン 野村 信)



日本とランカスターの学生達の
ディスカッションの様子



セミナー終了後
手を振るランカスターの学生達



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第18号

2022年6月7日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp